

# 早稲田大学インクルーシブ教育学会 ニュースレター

2018年（平成30年度）・NO.1

## 総会開催

2018年5月19日

早稲田大学3号館 202 教室

平成 29 年度活動報告・会計報告と平成 30 年度年間計画・会計予算案・規約改正について承認されました。

今年度は、研修と研究の 2 本柱で、さらに研究は、私学部会・専門部会・学生部会に分かれ、それぞれのテーマに沿った研究を進めていきます。

研修会は 6 回になりますが、それぞれの活動は随時進めていきます。ぜひご参加ください！

## 平成 30 年度 年間計画

	日時・会場	内容
総会	5月19日(土) 18:00~19:00 19:00~20:00 早稲田大学 3号館 202 教室	・総会 ・記念講演 「成人期にインクルーシブな社会参加をめざして ～ASDを中心に」 講師：早稲田大学教授 梅永 雄二氏
1回	6月17日(日) 9:00~12:00 13:00~16:00 早稲田大学 14号館 716 教室	実践的研究の進め方研修会 午前：①「実践的研究」の理解 ②「実践的研究」の事例紹介 午後：③「実践的研究」の計画立案 講師：早稲田大学教授 本田 恵子氏
2回	7月15日(日) 9:00~12:00 早稲田大学 16号館 306 教室	「UDL 実践ワークショップ（仮題）」 講師：NY 州スクールサイコロジスト バーンズ亀山静子氏
3回	9月24日(月) 9:00~12:00 早稲田大学 (会場未定)	「インクルーシブ教育 実践交流会」 発表：私学部会 専門部会 学生部会 講師：早稲田大学 教授 本田 恵子氏
4回	11月18日(日) 9:00~12:00 早稲田大学 7号館 212 教室	「インクルーシブ教育におけるICTの活用（仮題）」 講師：未定
5回	1月20日(日) 9:00~12:00 早稲田大学 7号館 212 教室	「教室の中での多様性を考える（仮題）」 講師：未定
6回	3月17日(日) 9:00~12:00 早稲田大学 (会場未定)	実践発表会 講師：早稲田大学 教授 本田恵子氏 高橋あつ子氏

**本田恵子先生挨拶** 「インクルーシブは、通常の学級で行われる」ということを貫いていきたいと思ひます。現状は、なかなかUDLに行きつかない、授業者側の視点に立った指導から一歩進めることができないでいます。学ばなければいけないことは限りなくあります。ホームページも整えました。それぞれの部会の活動を進め、ホームページでも報告していきます。

### 【私学部会】一ノ瀬秀司先生

2016年に早稲田大学で行われた現職教員OJT研修での実践発表から数えて3年目になります。今年度の目標は、私学の実情を踏まえた実践事例の蓄積です。学会の研修とリンクさせて実施していきます。

### 【学生部会】鴨川光先生

「遊ぼう会」の活動を中心に進めています。子供たちと学生が共に学び合う会です。子供たちの感受性を豊かに育て仲間づくりの力を伸ばしていくことを目的としています。今年の活動も、いろいろな体験を通して、いろいろな子どもの好きと出会っていきたくと思っています。

### 【専門部会】小嶋真子先生

専門部会は、特別支援教育を実践している方とSC、SSWなどを構成メンバーに、今年度から発足します。座談会の交流を通して学びあう会です。実践報告の立案・報告方法を学び、自身の実践を見つめまとめることを今年度の目標としています。

## 「成人期にインクルーシブな社会参加をめざして～ASDを中心に～」

梅永先生は、自閉症者のカウンセリングや、実際に企業に出向いて職場での問題の改善を図る就労支援をメインに活動をしています。現在は、進学校のキャリア教育の相談も多くなっています。世界3大アスペルガーと言われる、ビル・ゲイツもスティーブ・ジョブズもマーク・ザッカーバーグも学校教育はうまくいかなかったが、あれだけの成果を上げています。ジョブマッチングが大事になります。今回は、梅永先生が留学し研究を行った、ノースカロライナ大学の **TEACCH Autism Program** を中心に、ASD の学習スタイルの理解と構造化を中心に講演がありました。

### ASD の 3 つの学習スタイルの特徴を理解することが、インクルーシブな教育につながる。

**中枢性統合（全体を把握できる力）の弱さ：**同時に複数の情報をまとめることができず、一部のみに焦点を当ててしまうため、詳細なことにこだわってしまうシングルフォーカスやトンネルビジョンと言われる状態になります。そのため、全体像に気を配れない。うまくいかないことを繰り返す。感情のコントロールができなくなる。人に助けを求めない。どんな行動をとるかわからないときは何もしない等の問題行動になります。

**実行機能（いつ、どこで、何をどのような手順で行うか把握できる能力・先の見通しをもつ能力）の弱さ：**先の見通しがもてないことによる怖さや不安が様々な問題行動の原因になります。この能力は、知的に高い ASD の人でも困難なことです。刺激に敏感に反応してしまい、思考や判断がうまくできずに衝動的に行動したり、問題解決がスムーズにできません。そのため、新しい仕事を覚えるのが困難。期限を守れないことや約束に遅れることが多い。必要なことの推測ができない。仕事を終わると次の指示を待っている等の問題になります。

**ワーキングメモリー（脳に情報を一時的に保存し、それに基づいて処理する能力）の弱さ：**LD や ADHD の人もワーキングメモリーが弱いことで実行機能に影響が出てくる場合があります。そのため、仕事の手順や言語による指示を覚えておけない。記憶したことを応用できない等の困難があります。

### 小さい時には ASD に特化した教育と、構造化による指導法が有効。

ASD だけは、通常の学級で障害のない生徒と学習することに特別な困難があります。専門性のある教師の存在も必要です。幼児期には徹底した ASD に特化した教育を行い、小学校高学年くらいから「逆統合」という形で定型発達の子供と一緒に学習していき、高校で半々に、成人期にはインクルーシブな社会参加をしていく。大人になった時にインクルーシブに生活することを目標に少しずつインクルージョンを進めていくという考え方です。

ASD に特化した教育とは、ASD の子供が変化するための指導ではなく、環境にアプローチする「構造化」による指導です。ちょっとした環境へのアプローチで学習しやすくなっていきます。子供たちが活動を行う時に意味を理解し、実行機能やワーキングメモリーの弱さをフォローすることができるからです。環境の構造化、時間の構造化、活動の構造化、視覚的構造化（視覚的な指示・視覚的組織化・視覚的明確化）を進めていくことで、不安が軽減し、スキル獲得能力を高め、適切な行動がとれるようになり、自立につながっていきます。

ノースカロライナ大学の **TEACCH Autism Program** は、自閉症者への教育・支援の拡大・自閉症の理解・共同支援・包括的サポートなどの生涯にわたるトータルサポートプログラムです。

質疑応答では、「逆統合」や「就労」についての質問が出されました。就労に関しては、まだまだ梅永先生にお聞きしたいことが沢山ありました。また、TEACCH の中心理念でもある、子供が学びやすい環境を整える、「構造化」を推進するための研修の機会もつくりたいと思いました。

毎年、8 月末に早稲田大学で「国内最大、最高の自閉症（ASD）支援のための専門会議」が開かれています。TEACCH にご興味のある方は是非、検索をしてみてください。「**自閉症カンファレンス NIPPON 2018**」8 月 25 日（土）～8 月 26 日（日）早稲田大学 14 号館